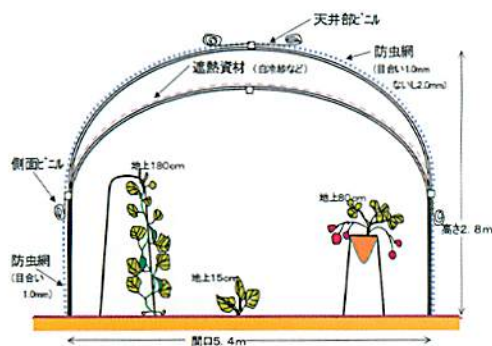


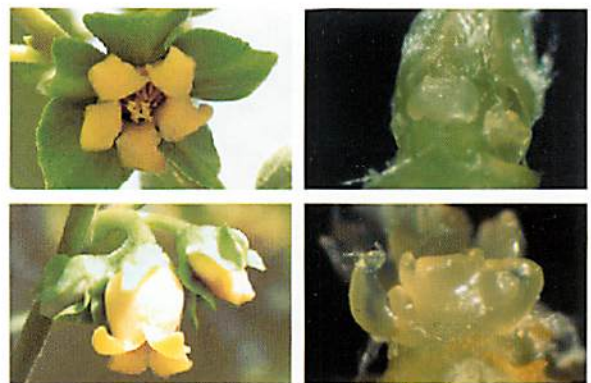
農総試ニュース

第43号

2001.6



フルオープンハウス



カキの花と花芽
(左上:雌花 左下:雄花 右上:花芽(雌)右下:花芽(雄))

更新情報
お知らせ
農業総合試験場
研究情報システム
(FARSIS)
型 等
組 織
マップ
HPに関する
ご意見はこちら
に



新しいホームページ



最近問題となっている
水田雑草マツルギク

主な内容

○研究の紹介

- ・高温を抑え、害虫の侵入を防ぐフルオープンハウスの開発
- ・カキの花芽の雌雄性決定時期の解明

○新しい研究の話題

○トピックス

○人の動き

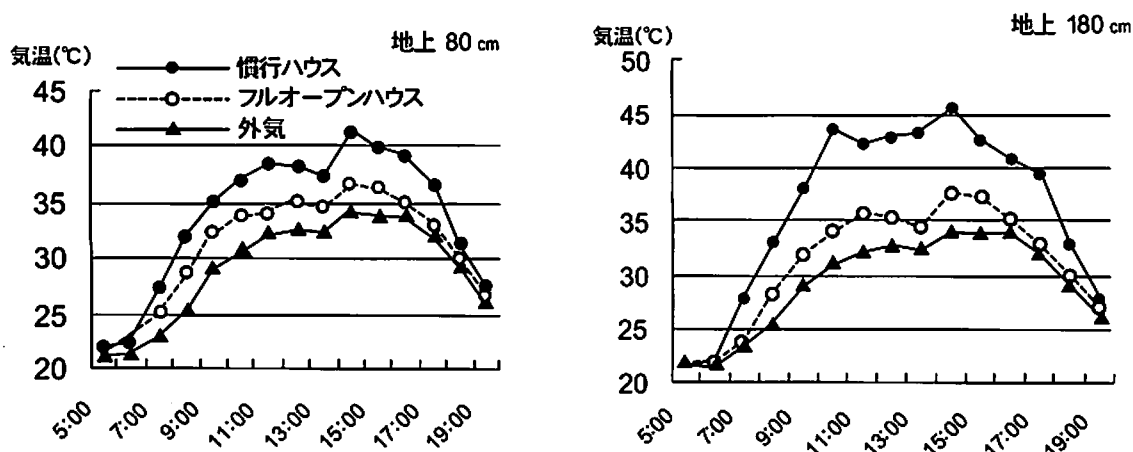
研究の紹介

高温を抑え、害虫の侵入を防ぐフルオープンハウスの開発

施設野菜栽培では、夏の高温による生育抑制と害虫の発生が大きな問題となっている。そこで、換気を良くして高温を抑えるために天井部までビニルを巻き上げられるようにし、害虫の侵入を防ぐために防虫網を組み込んだ「フルオープンハウス」を開発した。

このハウスは、既存のパイプハウスを改造して作ることができ、夏の晴天日であっても、ハウス内の気温を慣行ハウスよりも4℃以上低くすることができる。また、このハウス内部に白冷紗などの遮熱資材を張ると、野菜の葉面温度をさらに下げられる。さらに、1mmの目合いの防虫網をハウスに組み込むことで、コナガやアオムシ、ハスモンヨトウ等の鱗翅目害虫の侵入を防ぐことができる。

このハウスは、小松菜やチンゲンサイなどの軟弱野菜を周年、減農薬で栽培することが可能であるほか、高温期の果菜類や花きの栽培にも有効である (八女分場)



施設の種類と高さ別気温の推移

注①8月23日、晴天日の可照時間帯。

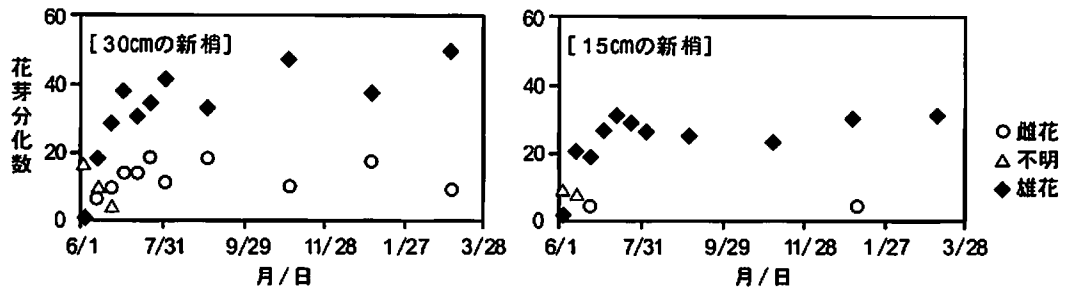
②オープンハウス：側面1.0mm、天井部2.0mmの防虫網。

カキ花芽の雌雄性決定時期の解明

カキの花芽は6月下旬から7月中旬に分化するとされている。しかし、'西村早生'や'太秋'など同一樹に雌花と雄花が着く品種では、雌雄性の決定時期は、7月説と翌年3月上旬説があり見解が分かれている。そこで、両品種における花芽の雌雄性の決定時期と発育の実態を明らかにした。

'西村早生'の新梢では、6月上旬に花芽分化が始まり、10日程度経つと雄花には側生花が出現して、雄花と雌花の判別が可能となる。また、雄花は6月末、雌花は7月末頃まで続けて分化する。'太秋'の花芽分化は、'西村早生'から10日程度遅れて始まる。両品種ともに30cm程度の長い新梢の方が、15cm程度の短い新梢よりも遅く花芽分化するものの、雌花が多い。長い新梢の先端部付近の芽は、基部付近の芽よりも花芽分化の開始および停止の時期が遅い。先端部付近では雌花、基部付近では雄花が多く分化する。雄花の発育は雌花より早く進むが、いずれも8月末頃まで発育した後、翌春まで発育を停止する。

以上のように、雌花と雄花を着けるカキ品種では、花芽の雌雄性の決定時期は6月から7月であり、雌花は30cm程度の長い新梢に多く着生することが明らかとなった。樹勢の維持やせん定の調節によって、雌花が着生しやすい長い新梢を確保することが生産の安定を図る上で重要である。 (園芸研究所)



長さの異なる新梢上のカキ花芽分化数の推移（品種：西村早生）

新しい研究の話題

バイオテックによるスーパー農産物開発研究を開始

バイオテックは、日々目覚ましい進歩を遂げている。農業分野においては、この技術を活用して今までにない形質を持った新しい品種の開発等が期待されている。

当场では、この4月から27名の研究員によるプロジェクトチームを編成し、①遺伝子組み換えによる暑さや病気に強い花きの育成、②食味が良く病気に強いイネ等の育成を効率化するのに有効なDNAマーカーの開発、③ゲノム操作による種なしカキや大玉イチジク等の育成、といった3つの手法による新品种の開発に係る試験研究を開始した。

これらの研究は、本年度から18年度までの6年間実施する計画であり、この間、九州大学理学部及び農学部と共同研究体制を組み推進する。

園芸施設から出る廃液の植物や微生物を利用した浄化技術開発を開始

施設園芸作物の栽培方式として用いられている養液栽培は、肥料を水に溶かして作物へ与える栽培法である。この方法は、作物に必要な肥料分をより細やかに施すことが可能であるものの、施した肥料分の一部は、作物が吸収しきれずに廃液となるため、この処理法の確立が重要である。そこで、夏季は肥料分を吸収する力が強いケナフ等の植物を、冬季は脱窒機能（水に溶け込んでいる窒素を窒素ガスに変える力）を持つ微生物などを利用して、廃液を低コストで効率良く浄化するための研究を開始した。この研究により、環境にやさしい廃液浄化システムの開発が期待される。（生産環境研究所）

トピックス

5月中に収穫できる小麦新品種「イワイノダイチ」の栽培技術の確立

本県の小麦栽培では、収穫期の雨害や水稲との作業の競合が大きな問題であり、5月中の収穫を可能にする高品質安定生産技術の確立が重要である。新品種「イワイノダイチ」は、秋播性（低温要求度）が高く、早播きしても茎立ちが遅いため凍霜害を受けにくいので、早播きすることで5月中に収穫可能な小麦である。さらに、穂発芽しにくい、うどんにした時の「こし」が強くなめらかであるなどの特性を備えている。現在、早播きでの製粉特性の解明や高品質安定生産のための栽培技術の確立試験に取り組んでいる。（農産研究所）

最近問題となっている水田の帰化雑草ヌマツルギクの生態と防除

ヌマツルギクは、多年生で、花が9月から11月中旬に咲く、北米原産の帰化植物である。繁殖力が旺盛なため、最近、県内の水田や畦畔で繁茂し問題となっている。水田での主な繁殖は、畦畔に繁茂した植物の切断茎が直接もしくは水路を経由して水田に入って着生することによって行われる。また、種子では繁殖しない。この切断茎は気温20℃以上で旺盛に伸長し、土中に埋没すると芽は出ない。有効な除草剤は、ペンスルフロンメチルを含む水稲用除草剤で、ペンタゾン、ジメタメトリン、2,4-PAを含む剤と体系的に処理するとさらに効果的である。(豊前分場)

ホームページのリニューアルとグループウェア整備

当場のホームページをリニューアルした。今回の改訂では、従来の研究成果情報をデータベース化して提供することに加え、行事等の案内を掲載するためのお知らせのページを新たに設置している。また、ホームページの中には、皆様からの貴重なご意見、ご感想をお寄せいただくためのポストを設置しており、こちらもご利用いただきたい。なお、5月から場内LANに、グループウェアを導入しており、これを活用した研究業務のいっそうの迅速化・効率化に努めたい。(企画経営部)

表彰

表彰の種類	受賞期日	テーマ等	氏名	所属
全国畜産関係場所長会 研究功労者表彰	13年6月4日	大家畜の飼養管理技術の研究 乳用去勢牛に対する大麦給与に よる肉質向上技術の確立ほか	高椋久次郎	畜産研究所

人の動き

退職者

(13.3.31付)

中川 義博(副場長)
永井 道雄(管理部長)
藤井 秀明(生産環境所長)
井上 尊尋(畜産所長)
角 利昭(園芸専門研究員)
恒 遠正彦(果樹苗木分場長)
野口 保弘(果樹苗木専門研究員)
馬場 孝秀((独)農研機構中央農研セ
北陸研究センターへ)

<転入>

今林 惣一郎(副場長)
窪田 義剛(管理部長)
広崎 政臣(管理課長)
草場 保之(総務課副長)
細谷 忍(総務課事務主査)
西村 明子(総務課主任主事)
諸藤 昭浩(管理課主任主事)
山崎 茂美(企画課長)
加峯 佳代子(企画課主任主事)
池上 秀利(生産環境技師)
手塚 柴真弓(生産環境技師)
坂井 守啓(農産主任技師)
果山 康弘(園芸専門研究員)
稲田 拓郎(園芸主任技師)
平川 淳(畜産主任技師)
石井 達也(畜産主任技師)
石井 孝治(豊前主事)
川口 澄夫(筑後次長)
石塚 明子(筑後技師)
伊藤 寿万子(八女事務主査)
草野 成夫(果樹苗木専門研究員)

<昇任及び場内異動>

測上 法子(会計課事務主査)
稲永 さと子(会計課主任主事)
中原 秀人(経営情報課専門研究員)
大我 俊輔(生産環境所長)
中原 隆夫(生産環境生物資源部長)
平野 稔彦(生産環境専門研究員)
末吉 孝行(生産環境主任技師)
大賀 康之(農産所長)
平田 保雄(農産育種部長)
松江 勇次(農産栽培部長)
尾形 武文(農産専門研究員)
福島 裕助(農産専門研究員)
牛島 孝策(園芸常緑研究員)
佐藤 公洋(園芸主任技師)
藤島 直樹(畜産所長)
梅田 剛利(畜産乳牛研究員)
小山 太(畜産研究員)
藤田 彰(試験地専門研究員)
真鍋 尚義(豊前分場長)
田中 浩平(豊前専門研究員)
野方 仁(豊前研究員)
小林 泰生(果樹苗木分場長)

異動

(13.4.1付)

<転出>

安村 茂(嘉穂病院庶務課長)
津留 順四郎(保環研総務課副長)
下川 登史美(監査保護課主任主事)
武原 邦子(西福岡県税主任主事)
荒木 由美子(健康対策課主事)
小林 英巳(福岡農林主任主事)
山中 正博(農政課研究調整係長)
谷川 孝弘(農業技術課専門技術員)
柿原 孝彦(朝倉農改技術主査)
平嶋 善典(福岡農改主任技師)
辻松 恵(北九州土木主事)
笠置 忠彦(福岡土木総務課長)
島 房代(八女土木事務主査)

<新規採用>

葉子野 正人(畜産技師)

農総試ニュース No.43

編集・発行 福岡県農業総合試験場
印刷・製本 城島印刷株式会社
〒818-8549 福岡県筑紫野市大字吉木 587

平成 13年 6月25日

電話 092-924-2936 (企画経営部)

FAX 092-924-2981

ホームページURL <http://www.pref.fukuoka.jp/nosei/organ/farc/home3.htm>